

1_伊良湖岬

凡例

- 調査エリア(5km×5km)
- 水中動画連続撮影
- 垂下式水中カメラ撮影
- UAV撮影(300m×300m)
- 藻場分布素図

第7回自然環境保全基礎調査

- 重点調査
- 簡易調査

第5回自然環境保全基礎調査

第4回自然環境保全基礎調査

港湾区域

閉鎖性対策水域_境界線

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m

(c) Esri Japan, Sources: Esri, HERE, Garmin, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイト「[現地調査の結果](#)」の「[調査結果（データ）](#)」をご覧ください。

ライン 番号	岸側基点				沖側基点				測線距離 (m)
	緯度		経度		緯度		経度		
1	-	-	-	-	-	-	-	-	562
2	-	-	-	-	-	-	-	-	602
3	-	-	-	-	-	-	-	-	618
4	-	-	-	-	-	-	-	-	497
5	-	-	-	-	-	-	-	-	503
6	-	-	-	-	-	-	-	-	689
7	-	-	-	-	-	-	-	-	696
8	-	-	-	-	-	-	-	-	701
9	-	-	-	-	-	-	-	-	504
10	-	-	-	-	-	-	-	-	506
11	-	-	-	-	-	-	-	-	555
12	-	-	-	-	-	-	-	-	516
13	-	-	-	-	-	-	-	-	505
14	-	-	-	-	-	-	-	-	599
総測線距離									8, 053

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年 8 月 22 日、25 日、26 日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容

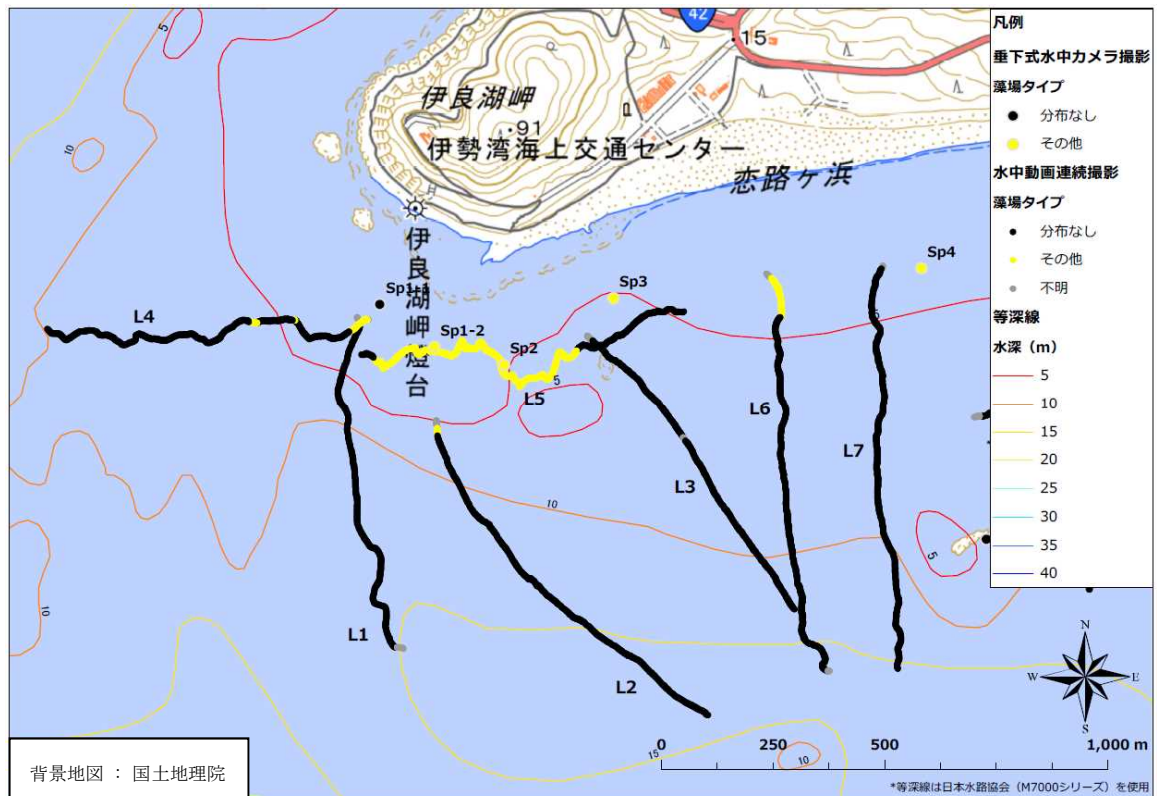
(7) 調査海域の概要

本海域は砂質域を主体とし、伊良湖岬周辺や石門周辺の一部でみられる岩盤や礫、潜堤の周辺でワカメやセイヨウハバノリ、ヒジリメンが生育する。太平洋に面していることから波あたり、潮流ともに強い（第 7 回自然環境保全基礎調査）。年間平均風速は 8.0 m/s を以上であり、洋上風力施設設定可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。

《参考》第 7 回自然環境保全基礎調査

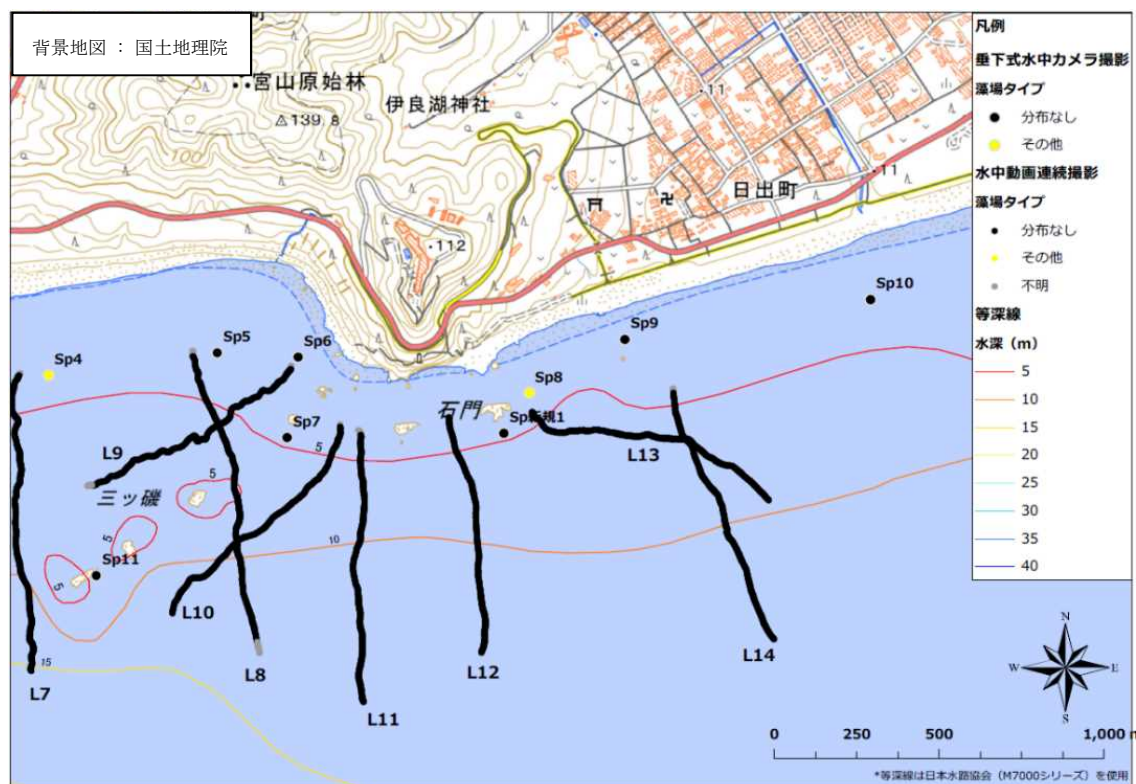
(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1～7 の状況



- 測線 1 の状況：水深は約 6～16 m で、砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。
- 測線 2 の状況：水深約 8～12 m の範囲で砂質域に岩盤が点在し、岩盤上に紅藻類（被度 5%未満）がみられた。それ以深は、砂質域であり海藻草類はみられなかった。
- 測線 3 の状況：水深は約 6～15m で、砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。
- 測線 4 の状況：水深約 6～7 m で、砂質域に岩盤が点在し、岩盤上に紅藻類（被度 5%未満）がみられた。それ以深は、砂質域であり、海藻草類はみられなかった。
- 測線 5 の状況：水深約 5～9 m で、砂質域に岩盤が点在し、岩盤上に紅藻類（被度 5%未満）がみられた。
- 測線 6 の状況：水深約 5～16 m で、砂質域に転石、礫が点在し、転石上に褐藻類（被度 5%未満）がみられた。
- 測線 7 の状況：水深約 6～17 m で、砂質域に岩盤が点在する測線であったが、海藻草類はみられなかった。

○測線 8～14 の状況



- 測線 8 の状況：水深は約 4～14 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。
- 測線 9 の状況：水深は約 5～11 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。
- 測線 10 の状況：水深は約 5～15 m で砂質域に岩盤が点在する測線であったが、海藻草類はみられなかった。

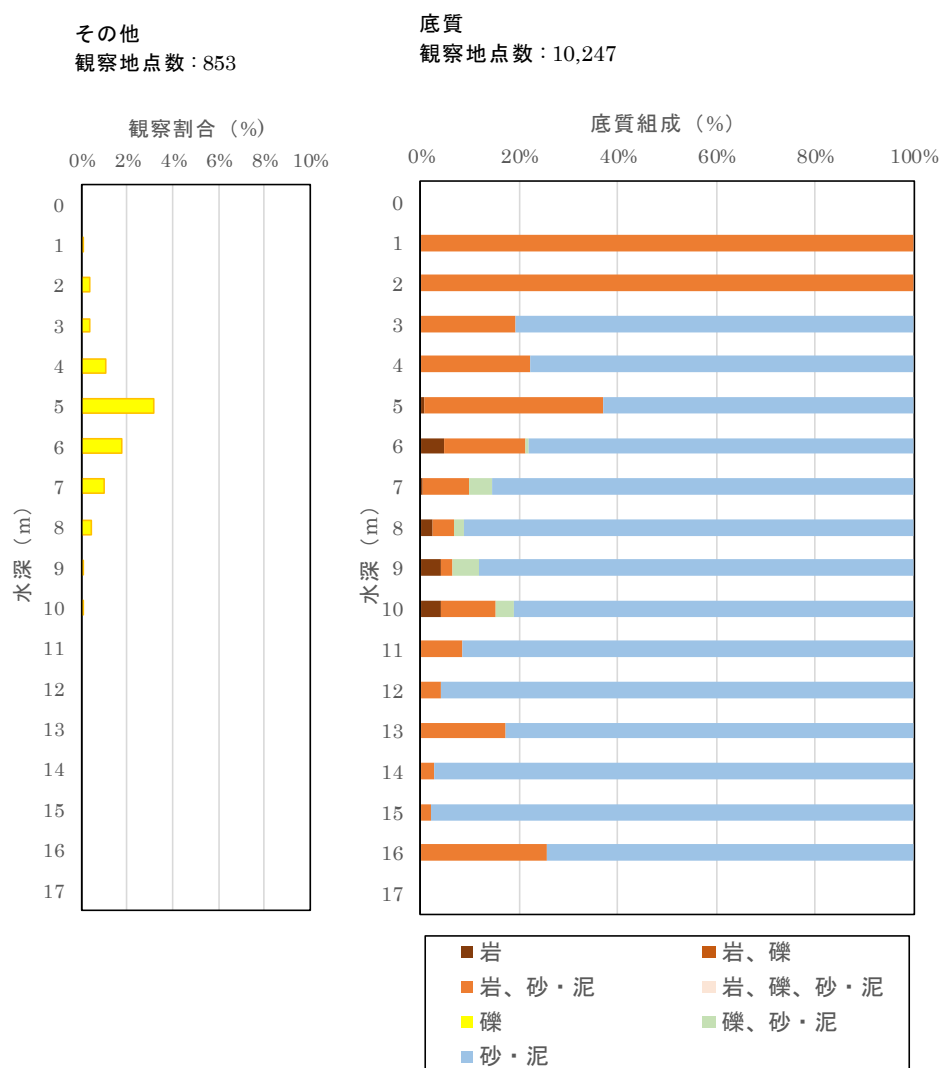
測線 11 の状況：水深は約 7～15 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。

測線 12 の状況：水深は約 5～14 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。

測線 13 の状況：水深は約 6～11 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。

測線 14 の状況：水深は約 6～14 m で砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 10,425 地点

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、潜堤周辺や岩盤上ではムカデノリ属の海藻がみられた。砂質域では海草はみられなかった。

地点番号	水深	主要な構成種	底質	備考
Sp1-1	6.8	分布なし	3, 4	砂・礫に貝殻片が混じる
Sp1-2	5.7	ムカデノリ属+	1	-
Sp2	7.3	ムカデノリ属+	1, 4	岩礁上に海藻が生育
Sp3	5.3	ムカデノリ属+	1, 4	岩礁上に海藻が生育
Sp4	3.0	ムカデノリ属+	2, 4	潜堤周辺を観察
Sp5	4.0	分布なし	2, 4	潜堤周辺を観察
Sp6	4.6	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp7	10.7	分布なし	1, 4	岩礁上に海藻がわずかに生育
Sp8	5.0	ムカデノリ属+	1, 4	岩礁上に海藻が生育
Sp9	6.1	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp10	5.1	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp11	12.2	分布なし	1, 3	-
Sp 新規 1	6.8	分布なし	4	砂地が一面に広がる



潜堤周辺でみられたムカデノリ属 水深約 4 m



ムカデノリ属 水深約 6 m

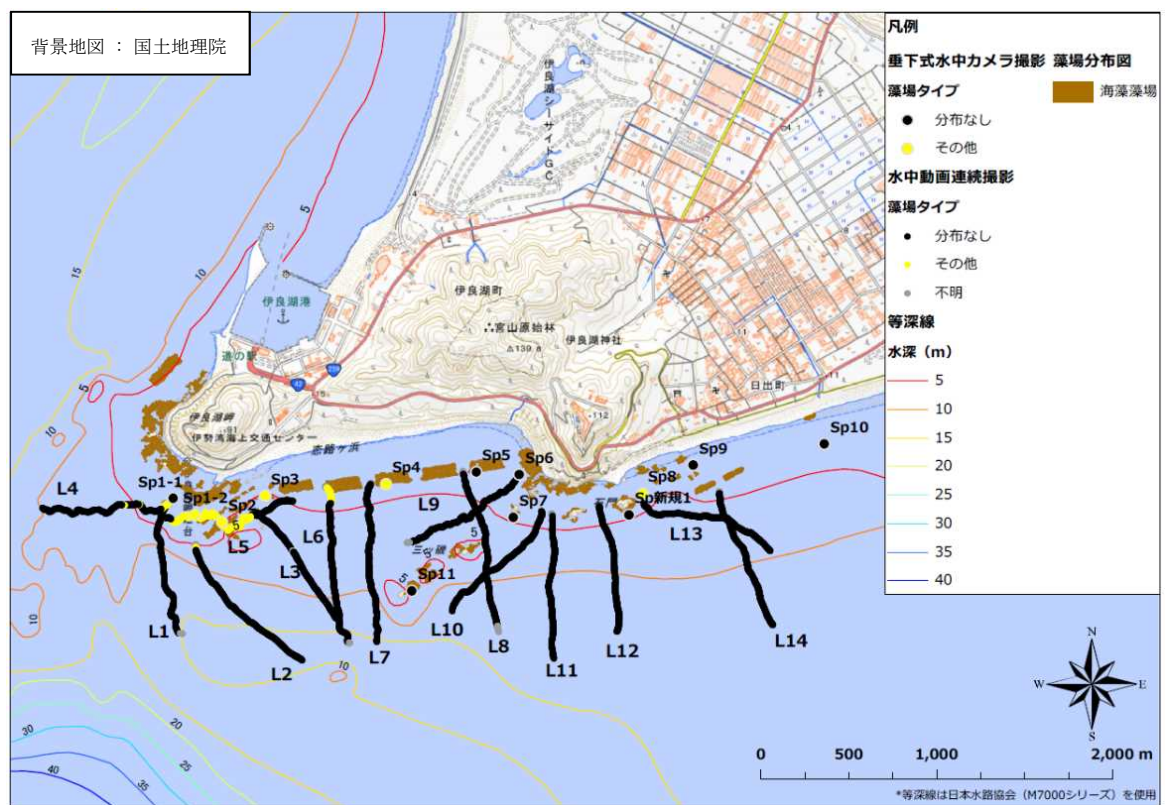
【UAV 撮影】

300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。海域の一部では、低輝度の海藻らしき影がみられた。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
15:20~15:31	CDL 1.57 m	S・1.7 m/s	0.5 m	149 m	-

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

砂質域を主体とする測線が多くみられ、海藻草類はあまり観察されなかった。砂質域に点在する岩盤や礫上、また恋路ヶ浜沖に設置された潜堤周辺で紅藻類が被度 5%未満でみられた。既往知見で報告されていたワカメ等の大型海藻は本調査では観察されなかった。



周辺状況（測線 1）



周辺状況（日出の石門）



周辺状況（測線 9）



周辺状況（日出町周辺）

(11) その他特記事項

特になし。